

公開研究室一覧及び配置図



食生命科学科

地域総合農学科 応用植物科学コース

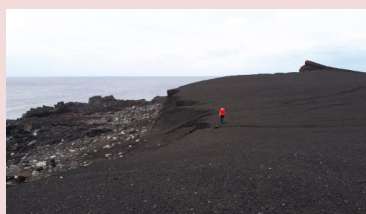
地域総合農学科 地域共生コース

グリーンイノベーション棟

401

環境土壌・地圏生態化学(食生命)
(担当:西澤)

畑や水田、湖沼などの多様な環境に生息する微生物を対象に研究を行っています。これらの微生物の機能を解明し、環境保全や農業に役立てることを目指します。



グリーン
イノベーション棟
(4階)

フード
イノベーション棟

食堂

売店

こぶし会館

受付

講義棟

図書館

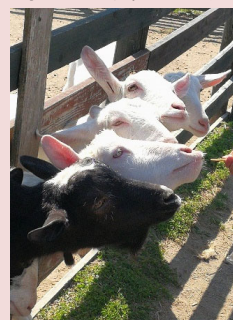
総合案内

中庭

応用動物行動学
(食生命)
(担当:安江)

展示

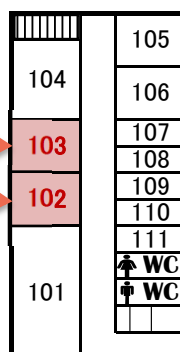
☀雨天時でなければ実際にヤギを展示して研究内容を紹介します。
(雨天時は532研究室へ)



102・103

生物制御化学(食生命)
(担当:戸嶋・長谷川)

生物由来の低分子生理活性物質(有機化合物)を対象として、化学合成の手法と分析機器類を駆使した研究を行っています。



研究棟入口

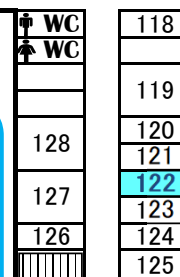
特殊実験棟

研究棟 1階

122

景観整備学(地域共生)
(担当:高瀬)

暮らしや農が地域の景色をどう支えているのか。そんな問いを「Landscape for all」の視点で探究! 地域との対話が面白い👉 知れば知るほど「なんで?」が増える学びが、ここにあります。



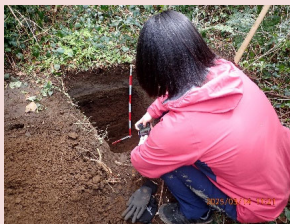


研究棟 2階

203

土壤環境科学(食生命)
(担当: 坂上)

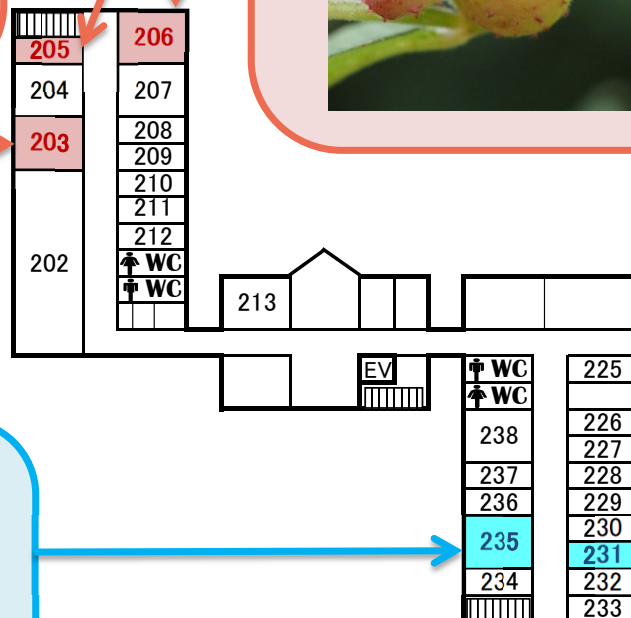
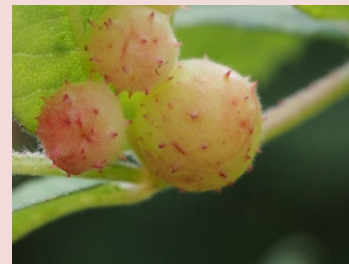
農業生産の基盤であり、物質循環の核となる“土壌”の視点を活かしながら、土壌、微生物、植物、そして動物(人間を含む)の連環に着目して、人間と自然の共生システムに関する多様な研究の展開を目指しています。



205・206

化学生態学(食生命)
(担当: 鈴木 義人)

植物の様々な現象を制御する植物ホルモンの研究を行っています。主に昆虫が植物に形成する虫こぶを対象とし、昆虫による植物ホルモン合成機構をテーマとしています。



235

農業水利学(地域共生)
(担当: 林)

農地土壌(水田や畑地など)における窒素循環を解析し、持続的可能な農業のあり方に興味ある方は是非いらしてください。

231

生態水理学(地域共生)
(担当: 前田)

シミュレーションやAIを使い、水や生態環境の保全に役立てる研究をしています。水路の水や土砂の動きのシミュレーション、AIによる画像中の魚の自動検出例をご紹介します。



公開実験

果実の糖度や酸度を測定して
美味しさとの関係を調べてみよう！

果物は甘みが増すほど美味しくなるのでしょうか？ 答えは No！ です。
果実の美味しさには、糖分による甘さだけでなく、酸っぱさのもとである有機酸とのバランスが深く関係しています。
本実験では、自分の舌で感じる美味しさと果実の糖度や酸度との関係を自身で味わい測定することで体験できます。

【開催時間】 11:00～12:00, 13:00～14:00

【参加人数】 各回5名程度（先着順）

※見学自由



研究棟 3階

実験

325

園芸学(応用植物科学)
(担当:井上・望月)

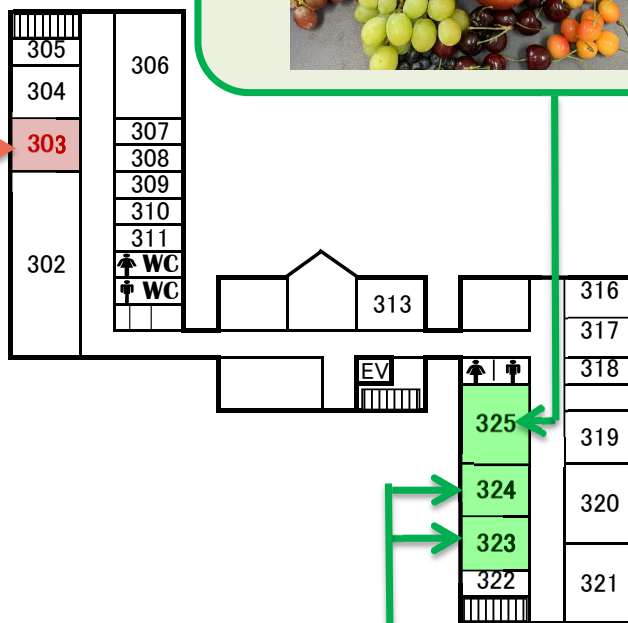
野菜や果物など、園芸作物の生産と利用に役立つ情報を得るため、生理・遺伝学的なアプローチで研究に取り組んでいます。
応用植物科学コースについての質問にもお答えしますので、気軽にお立ち寄り下さい。



303

食品生化学(食生命)
(担当:長南)

微生物を利用して、CO2から生分解性プラスチックをつくっています。
このプラスチックは海洋中でも分解されるため、マイクロプラスチック問題の解決にも役立ちます。



323・324

作物学(応用植物科学)
(担当:迫田)

イネやダイズなどの作物を扱い、品質・収量の向上や省力化、環境にやさしい農業の実現などを目指して研究を行っています。
大学や研究のことなども気軽に聞いてください！





研究棟 4階

404

食品分子機能学(食生命)
(担当:上妻)

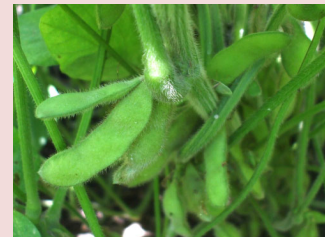
アピオスや食用昆虫等の食品素材中から生体調節機能性成分(血圧低下作用など)の探索・分離や生物活性タンパク質の医学・生化学分野への応用に関する研究を行っています。



407

分子生物化学(食生命)
(担当:小島)

本研究室では、塩ストレスに応答する機能未知遺伝子の機能を解明し、耐塩性に優れた植物の開発を目指しています。今回はポスターを用いて研究内容を紹介します。



403

微生物生態学(食生命)
(担当:成澤)

当研究室ではエンドファイトなどの菌類を材料としてその相互作用の解明、環境修復や農業への利用を目指しています。



	409
408	410
407	411
	412
406	413
	414
405	415
	416
404	417
403	WC
	WC

				422
				423
				424
402		EV		
			434	425
			433	426
			432	427
			431	428
			430	429

432・433

応用動物昆虫学(応用植物科学)
(担当:北嶋・菊田)

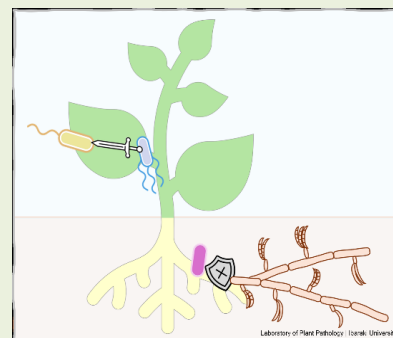
植物寄生性ダニ類(ハダニ)や食品害虫の分類、生態、防除に関する研究を行っています。生きているハダニや多数の昆虫標本も展示しています。是非見学に来て下さい。



428・431

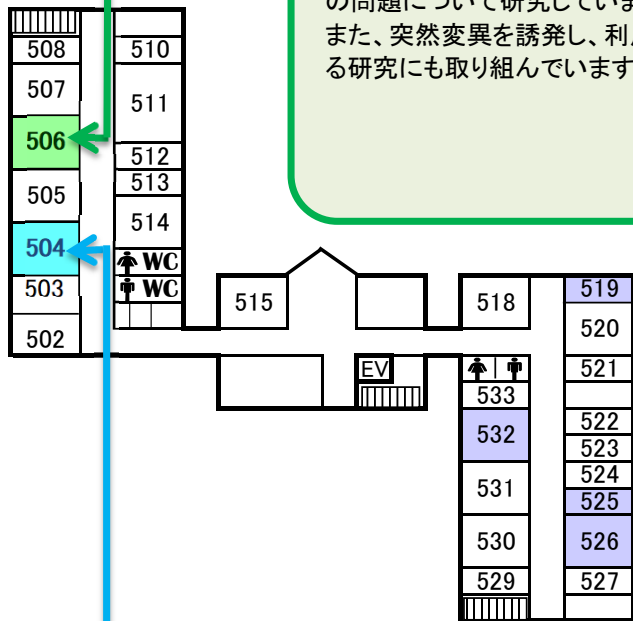
植物病理学(応用植物科学)
(担当:中島・古谷)

「植物の病気を防ぐのに有効な微生物の探索」や「細菌同志の生存競争に利用される6型分泌系に関する研究」をしています。ポスターを使って研究内容をご紹介します。お気軽にお立ち寄りください。





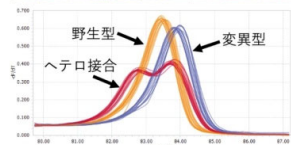
研究棟 5階 その1



506

植物遺伝育種学(応用植物科学)
(担当:久保山)

イネやアサガオを研究材料にして
雑種を作ったり、利用したりする際
の問題について研究しています。
また、突然変異を誘発し、利用す
る研究にも取り組んでいます。



上: アサガオと花色変異体
下: DNAマーカーによる遺伝子型判定

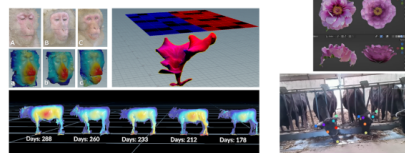
504

農業生産システム工学(地域共生)
(担当:岡山)

私たちの研究室では、「植物」や「動物」を3Dモデリング
やAIでデジタル化し、これまでにない視点からその魅力
や可能性を探る研究に取り組んでいます。

電農研 Digital Agriculture Lab.

我々は農の“デジタル化”に取り組んでいます。
なぜ“デジタル化”するの？
どうやって“デジタル化”するの？
気になった方は、ぜひ504号室にお越し下さい！



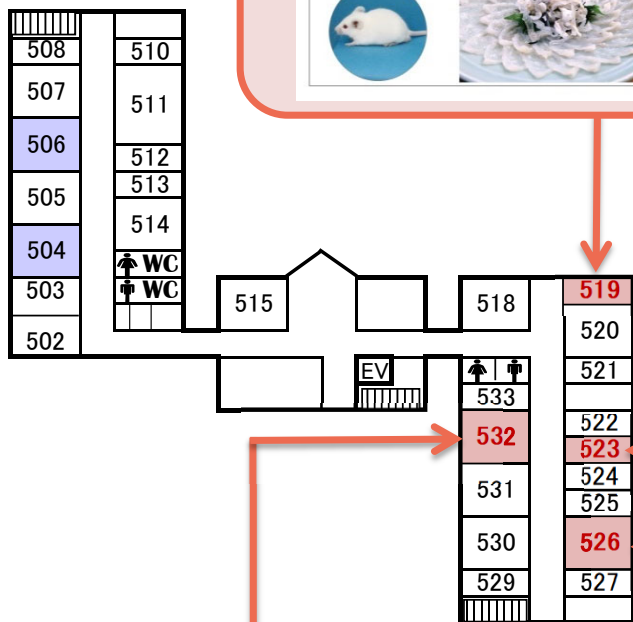
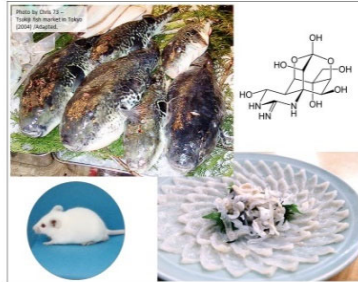


研究棟 5階 その2

519

食品衛生学(食生命)
(担当: 鈴木 穂高)

食の安全を確保するために、食中毒の原因となる細菌や毒の研究をしています。フグ毒から昆虫食まで幅広く研究しています。



523

動物保健衛生学(食生命)
(担当: 上塚)

動物保健衛生学研究室は、動物の保健(暮らし)と衛生(病気の予防)に関する研究を行っています。動物に限らず様々な生物と人の共生に貢献したいと考えています。



532

応用動物行動学(食生命)
(担当: 安江)

家畜の行動に合わせた適切で、人にとっても便利な飼育管理方法を確立することを目的とする研究室です。雨でなければ、中庭のヤギ展示場で研究内容を説明しています。

526

動物生体機構学(食生命)
(担当: 吉田)

味覚は、日々の食事を楽しむ上で不可欠ですが、嗜好性の高い食品の摂り過ぎは様々な疾患のリスクになります。我々は、そんな味覚をテーマとした研究に取り組んでいます。



研究棟 6階 その1



608・609

景観生態学(地域共生)
(担当: 庄山)

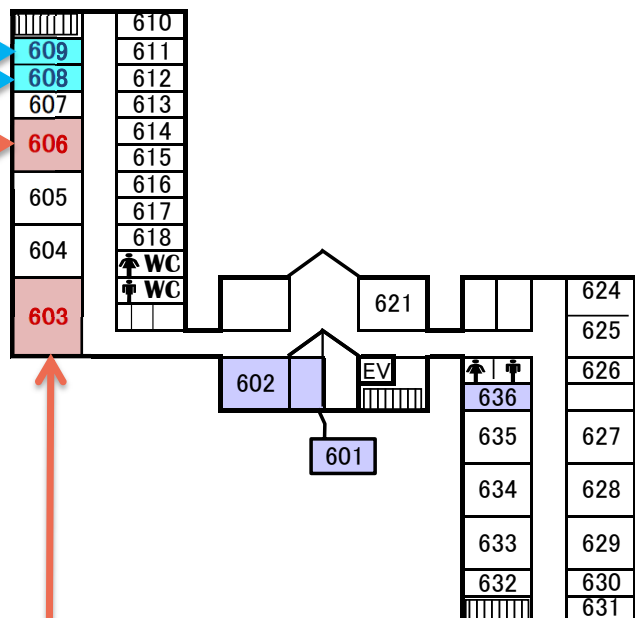
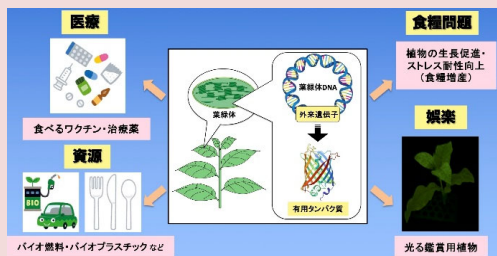
里山など人と自然が共存する環境について研究しています。当日はカメラトラップで撮影したキャンパス周辺に生息する哺乳類の映像を紹介します。



606

分子遺伝学(食生命)
(担当: 中平)

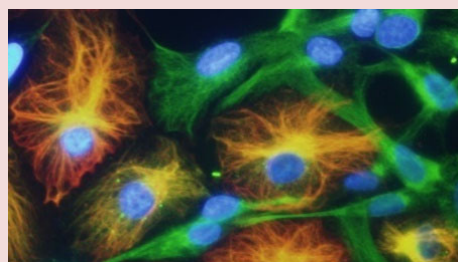
植物の葉緑体を対象にした遺伝子組換え技術【葉緑体工学】をつかって、「食べるワクチン」・「光る植物」など、有用植物を開発中です。



603

家畜遺伝学(食生命)
(担当: 金澤)

哺乳類に特有の器官である乳腺は、何種類もの細胞で構成されています。それらの細胞の増殖と分化の調節機構を調べています。可愛いマウスや細胞をお見せします。



研究棟 6階 その2



636

飼料資源科学(食生命)
(担当: 豊田)

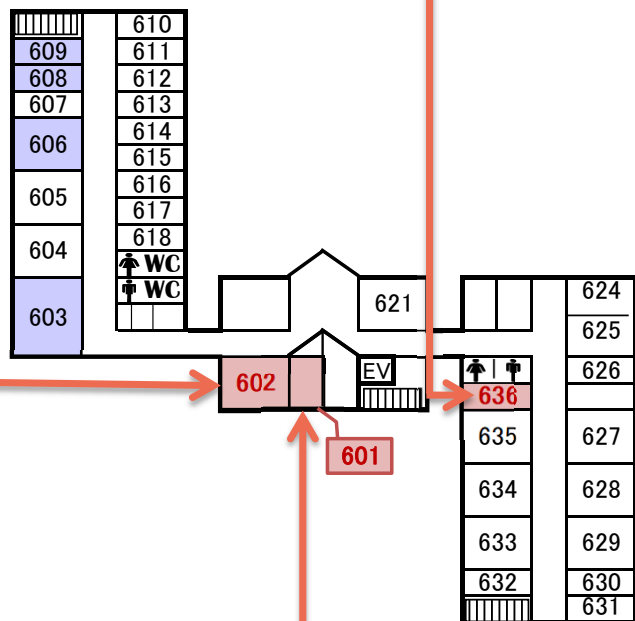
ストレスが動物の行動や身体にどのような影響を与えるのかに興味を持って研究しています。ストレスの影響を食で予防できるでしょうか？皆さんのお越しをお待ちしております。



602

動物細胞工学(食生命)
(担当: 大久保)

動物や培養細胞を使って、成長や生殖を調節するホルモンの研究をしています。当日はいろいろな培養細胞を観察できますよ。



601

食品安全分析学(食生命)
(担当: 鎗田)

食の安全・安心の向上を目指し、食品中の有害化学物質を迅速、正確、安価、安全に分析する方法を研究しています。分析法(クロマトグラフィー)の原理を使った「にじみ絵」の体験もできます。



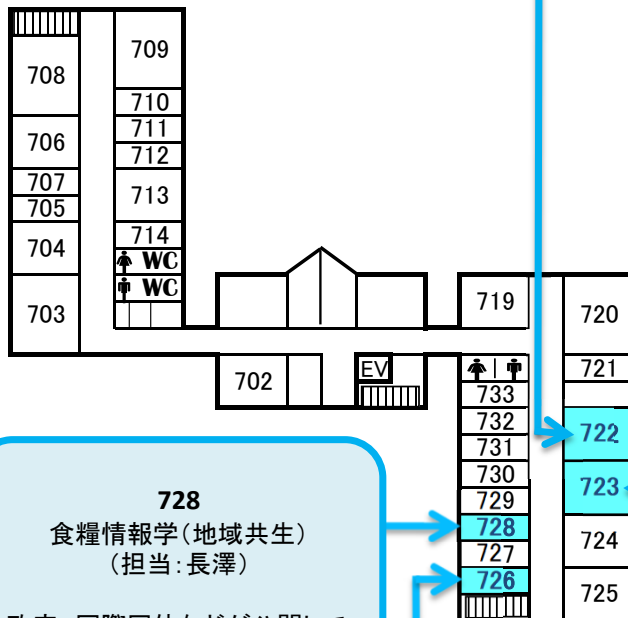


研究棟 7階

722

環境経済学(地域共生)
(担当:内田)

農業と地球環境の関係、農業と経済の関係について研究する研究室です。
表に出ない間接的なものも含めて、広い視野からこれらの関係性を考えています。



723

農村社会学(地域共生)
(担当:伊丹)

日本の農業や食をめぐる経済・社会・政策をテーマとした学生・院生の研究を中心に紹介します。学校給食、フードアクセス問題、6次産業化など。



728

食糧情報学(地域共生)
(担当:長澤)

政府、国際団体などが公開しているデータを利用してモデル解析をしています。

726

都市農業学(地域共生)
(担当:楊)

都市農業は、新鮮で安全な農産物を供給するだけでなく、都市住民の農業体験や地域交流の場の提供など様々な役割を果たしています。私の研究では、都市地域の消費者が農産物を購入する際に、販売場所の立地条件や販売チャネルがどのように影響するかを、アンケート調査に基づく実証分析とインタビュー調査による定性的アプローチを組み合わせで解明します。



フードイノベーション棟

フードイノベーション棟

304

畜産物科学(食生命)

(担当:宮口)

本研究室では、これから益々進む高齢社会に向けた新たな健康によい食肉製品の開発並びに環境に優しい畜産物の生産技術に関して教育研究を行っています。



フードイノベーション棟

303

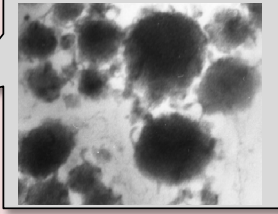
食品保蔵学(食生命)

(担当:中村)

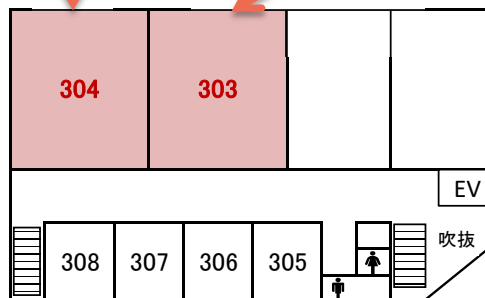
安全・安心で美味しい加工食品の開発に不可欠な安定剤(多糖類)を独自に開発し、構造と機能の相関解析を進めています。



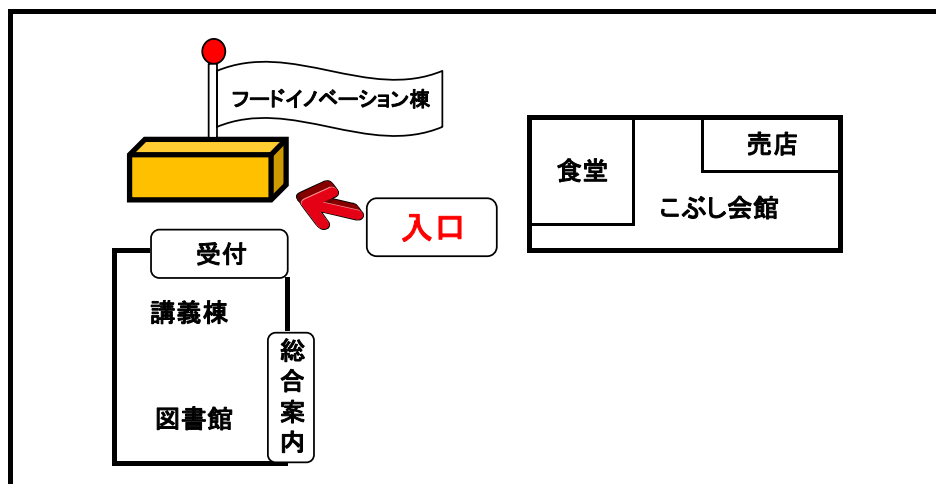
飲むヨーグルト



大豆多糖類で安定化した乳蛋白質粒子(電顕像)



フードイノベーション棟 3階





国際フィールド農学センター

国際フィールド農学センター

209

動物福祉管理学(食生命)
(担当:小針)

家畜や動物園動物を対象として、飼育管理上のストレス問題の解決やアニマルウェルフェアの向上に関する研究に取り組んでいます。



国際フィールド農学センター

207

農生態システム学(地域共生)
(担当:小松崎)

大学農場での有機農業研究に関する取り組みをご覧ください！



国際フィールド農学センター

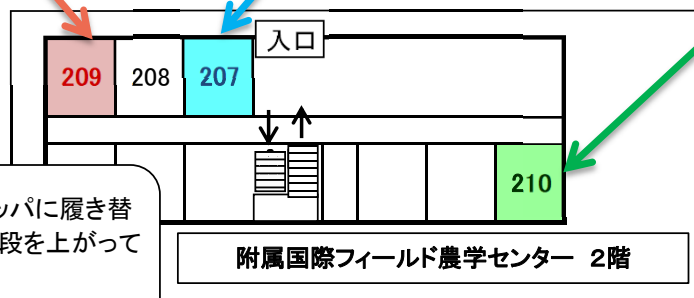
210

植物生産科学(応用植物科学)
(担当:佐藤・七夕)

植物生産科学研究室は、主にキュウリの栽培やダイズの根粒菌の研究を行っています。また、フィールドで様々な野菜を栽培しています。



入り口でスリッパに履き替え、正面の階段を上がって
2階です。



国際フィールド農学センター



ビニールハウス

看板

茨城大学
農学部

体育館・霞光寮側から
出て、左に進んでください。
【茨大農学部前】の
信号を渡って少し進む
と、左側に入口があり
ます。

体育
館

霞
光
寮